

金比羅山詣で

山本保

(独歩会員・佐伯市池船)

独歩と金比羅山

独歩の「欺かざるの記」には

十月七日

六日は去りて七日は来り、七日来りて七日も亦今將に去らんとす。

午前収二と共に郊外(久部)に出て、金比羅山(たばこ山)に登る。此の山は、佐伯町の南に当りて兀立する山なり。眺望佳なり。

また「豊後の国佐伯」には

或日城山の麓、崖をなす処に立ちて、静かなる川(番匠川)の面を眺めつつありし時、一人の少年曰く、見よ彼の山(金比羅山)を「たばこ山」と称す。そは煙草の葉に似るが故なりと。

余はこれをききて、深く、此の川の静肅を感じぬ。山の形、煙草の葉に似たるに非ずして、山影鮮かに水に映じ相合して、ここに煙草の葉をなせばなり。

漁村島裡の民、物を買ひ物を買らんとして「城下」に用あるもの、皆小舟に乗じて、海より此の川を沂まかのぼり来る。道路の便少なき山村の民亦た小舟に由りて此川の恵を被る」とある。

常夜燈

住吉神社(若宮八幡社の末社)境内に復元されている常夜燈(石灯ろう)は、池船橋のたもとにあったものであり、船頭町繁栄のシンボルでもあった。その台石にはすばらしい漢詩が刻まれているが、詩も書も、佐伯藩町方郡代奉行明石秋室の作であろうといわれている。

河上風雨百 河上風雨百し

舟子時尋津 舟子時に津を尋ぬ

一点照昏夜 一点昏夜を照らす

如逢耦耕人 耦耕の人に逢うが如し

注 津つみなど。舟着き場。昏夜こんやくれとよる。

日暮れて夜に入ること。耦耕の人くわいこう耦耕は

二人並んで耕すこと。転じて極めて仲のよい

間柄の二人。

そして献燈された船頭町塩飽屋太右衛門、塩飽屋柏五

郎、塩飽屋倉五郎など、十二人の商人が連記されている。



大日如来像(僧正様)

のが興味深い。

船頭町河岸が船着き場として、賑わっていた頃、灯台をかねて、船頭たちが崇敬していた久部、東禅寺の裏山に祭る金比羅宮へのお灯明として、毎晩あげていたものだといえられている。

東禅寺

東禅寺(通称久部のお大師さん)は真言宗大日寺の末寺である。寛政五年(一七九三)大日寺十三世住職孤貫和尚は、北斗山東禅寺を建立して隠居寺とし、さらに文政四年(一八二一)大日寺十四世貫道和尚が、四国八十八か所の霊場を設け、石仏を八十八か所に安置した。

孤貫和尚は学徳高く、藩主毛利侯の信任が厚かった。

京都御室、仁和寺宮門跡は、彼を信頼して勝功德院の住職に任命し、さらに宣旨を賜わり、権僧正と法衣を受領した。佐伯藩は、京都の勝功德院に香華料五石を贈って崇敬した。

寛政十一年六、七月雨がないので、孤貫は自ら蓑かさを着て尺間山にのぼり、山上の雄池で祈禱したところ、甘雨が大いに降ったと『鶴藩略史』に記されている。

現在、霊場登り口には、大日如来像があつて、俗に僧正さまと称せられているが、孤貫和尚の姿を写したものとわれている。また、その近くには、大日寺開基秀乗律師（初代）、貫道和尚の墓がある。

東禅寺本堂裏山には天満神社（祭神・菅原道真公）、稲荷大明神もあり、さらに登ると金比羅宮もある。

金比羅神社は、讃岐、琴平神社の分霊であつて、天保四年（一八三三）、船頭町商人潮屋保左衛門などが願主となつて、再建されたといひ伝えられている。

国木田独歩の「欺かざるの記」に金比羅山の文字がみうけられるが、この山は、高住山・高請山・卵塔山・たばこ山とも呼ばれている。しかし金比羅宮があるので、独歩は「金比羅山」と表現したのであろう。

金比羅山詣で

佐伯春まつりの四月三日（日曜日）午前九時半、独歩会員は金比羅山に登つた。参加者は深沢常吉氏・清田義雄氏・狩生熊義氏（独歩会長）・武藤等氏それに筆者の五名であつた。

新緑が目にしみる季節で、桜はちょうど満開であり、

春の陽光はさんさんと輝いていた。

先ず、屋根葺替えによつて、新しく衣がえした本堂（正面本尊・弘法大師、脇仏・薬師如来、十一面観音、不動明王、弁財天）そして聖観世音菩薩像を拜んだ。

境内には、子育て地藏安全祈禱・護摩堂があり、また明治四十一年夏に建てられた「本堂再建記念石碑」には提内、久部、臼坪、佐伯町、西野、白濁、門前、石間、大越、津志河内、上り場、長島、長瀬、荒網代、木立などの寄付人名もほりこまれていて、その信者の層の厚さを感じた。

つぎに、裏山のお四国をたずねる。

第一番札所には、四体の石地藏が安置されて、笠和山霊山寺、御本尊釈迦如来、嘉永二年二月、岡の谷、高橋喜三郎などの文字が、石室にきざまれている。

最後の札所には、大きな石室の中に三体の石地藏、その台石に、南無大師遍照尊願成就、身心賢固、明治九年春、佐伯船頭町、小川伊之吉等の字が誌されている。

そして、付近には、奉書写大乘妙典全部、願依此功德累代六親、九族天室恵真禅尼及、法界群生遠離海同証仏果、安政十年十一月吉辰日、安土屋治郎兵衛などの文字

が目をひき、そこには、信者の熱烈な信仰、強い願いがこめられていた。

途中、金比羅神社に参詣する。境内には、住吉神社と同様の常夜燈が一對建てられ、文政九年三月十日、万人講中世話方と書かれている。

金比羅社は、約三百六十年前から祀られていて、佐伯藩時代海上安全の守り神として、船手衆、廻船業者、各



佐伯市街展望（奥の院より）

浦の漁業者から崇敬され、

春秋二期の祭

祀を東禅寺住

職がとり行な

っていた。

頂上の奥の

院に、やっと

たどりついた。

眼下を、番

匠川が白く光

って、ゆるやかに

かに流れ、左

手には上岡・鶴望の工場群、商店街、住宅地が広がり、正面にその裾を横長く広げた城山の全ぼう、特に、本丸

・西の丸などの城跡があざやかに、右手に佐伯市街の高層建築、長島、女島などが眺められた。

目を転じると、柵牟礼山・尺間山・彦岳・灘山・元越山の山並み、佐伯湾・国定公園豊後水道等が一望でき、佐伯地方第一の景勝地である。家族同伴の清遊の一コーズであらう。

◆寄贈図書(二)

集古名画式

五卷

静逸人山中献跋
一万延元年

鎌倉 神野幸人

経穴彙解

八卷

南陽原昌克編輯
享和癸亥

〃

娘に贈る花嫁衣裳

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

思い出の食べ物

五卷

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

徴税官吏

三卷

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

憧恋

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

鎌倉のミニ佐伯史

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

民謡

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

道歌・俚諺

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

戦後の軍隊

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃